

献立ひとくちメモ

2月2日(金)



節分のお話です。

節分は、「季節の分かれ目」を

意味しており、「立春」「立夏」「立秋」「立



冬」の前日をさしていましたが、今では「立春」の前日だけを節分と呼んでいます。冬から春へと季節が移り変わる「立春」は特に大切にされてきました。

大豆は、昔から特別な力があると信じられてきました。「鬼は外、福は内」と唱えながら家の中や出入り口にまいて、鬼=邪気をはらい、自分の年の数（または年の数+1粒）の豆を食べ、1年の幸福を祈ります。



鬼は鰯のにおいが苦手なので、家の戸口や門に「ヒイラギイワシ」を飾って鬼を追い

払います。「ヒイラギイワシ」とは、ヒイラギの枝に、焼いたイワシの頭を刺したものです。

